

鉄筋工事業界の将来を守る

組合設立説明会開催

6月17日、株式会社沼田鉄筋の会議室において、県内初となる鉄筋工事業業者による中小企業組合組織化にむけての事業者説明会が開催された。

鉄筋工事業は、橋梁、高速道路、トンネルなどの土木工事の基礎部分やマンション、商業施設などのビルディングのコンクリート構造物の骨格を構成するために無くてはならない業種である。

山梨県内の建設業者数と従事者数の全業種に占める割合は、いずれも全国平均より高いが、平成24年度と比較して事業所数で5%、従事者数は7%減少^(※)、鉄筋工事業においても減少となっており、各社ともに事業の継続とそのための技術の継承、人材の育成が喫緊の課題となっている。^(※経済センサス山梨県集計結果)

鉄筋の施工は、建物の強度計算、構造等、建築全般の知識を要し、施工図の作成や工場での前段

取り・加工、現場での施工技術(要国家資格)と多くの技術力が要求され、技術の継承のためには時間をかけて「職人」を育てていかなければならない。

発起人であり、県内で長く鉄筋工事業を営む沼田三郎氏(株)沼田鉄筋代表取締役会長 創業昭和35年)は、「本県の鉄筋工事業業者の50%は従業員が4人以下、3割は従業員のいない小規模な事業者であり、鉄筋工事施工に欠かすことのできない技術者の育成を個々の事業者で行う事は難しい現状。志を同じくする鉄筋工事業業者で協同組合を設立し、共同で若い人材を確保し、技術の向上、安全・衛生など教育・指導を行い、将来的な業界の発展を目指していく。」と力強く語った。

鉄筋工事業業者の組織は、法人と任意組織を合わせて既に45都道府県にあり、山梨は後発県であ

●〈仮称〉山梨鉄筋工事組合

TOPICS



る。満を持して設立される組合として、組合員のために新たな機能を発揮できる組織となり、県内の鉄筋工事業界の地位の向上を果たす組織となる期待は大きい。